

NALC 横浜 第 14 回定時総会議事録

日 時：平成 20 年 6 月 7 日（土）午後 1 時 30 分～4 時

場 所：横浜市旭区民文化センター サンハート（二俣川ライフ 5 階）

来 賓：大阪本部 高畑会長、 東京本部 川口専務理事

埼玉西 中野代表、 川崎 花崎代表、黒田事務局長

埼玉 広瀬代表

東横浜 中島代表、鈴木事務局次長

南横浜 小野里代表、原田事務局次長

祝電 かずさ 宮崎代表

議 長：福江 孝夫、 司 会：吉武道子 書記：後沢 忠夫、清水昌子

1. 開会宣言

- ・吉武司会から、出席会員 75 名＋委任状 200 名＝合計 275 名であり、平成 20 年 3 月末の会員総数 461 名の 1/3 以上を満たしているので総会が成立する旨の報告があった。

2. 谷口代表挨拶

平成 19 年度会員数は 4 月の TBS 金スマ全国放映「介護を考える」の効果で 85 名増員、預託時間 7,258 時間(前年比 1,700 時間増)と大きな成果を挙げ、全国 132 拠点の第 3 位であった。しかし預託時間の 93%が施設での活動であり、会員同士の助け合いにもっと傾注したい。来年は本部発足 15 周年記念行事を京都で開催するので、関東の我々も大勢の参加を期待したい。モットー「やさしさも、楽しさもある NALC 横浜」を目指してお互いに頑張っていきたい。

3. 河口専務理事挨拶

来年の 15 周年を迎えて本格的な高齢社会に入ってきた。ナルクとして本格的な活動展開が必要。全般的に活動停滞気味であったが金スマなどメディアを通じて前進した。施設での活動は大事だが、同時に地域包括支援センターと連携した活動など地域に密着した活動が期待される。ナルク活動の正念場を迎えているので皆様の一層の活動・発展を祈念したい。

4. 議事 平成 19 年度の経過報告、決算報告等が議案書に基づき報告された。(以下、要点を記載)

4.1 平成 19 年度の一般経過報告：北原事務局長

4 つの重点施策 ①積極的な PR による会員勧誘：10 箇所の地域行事および 5 箇所の施設夏祭りに参加、TBS 金スマで 50 名入会、「赤いくつ」とホームページの充実 ②ボランティア活動先の開拓：グループホーム等 5 箇所で活動開始 ③会員間の親睦と健康の促進：新入会員およびコーディネーター研修会、同好会、特別講演 70 名参加、歩こう会 415 名参加 ④拠点再編委員会による再編検討：5 回実施、人材の確保と会員の盛り上がりが必要。

新入会 105 名（前年比 85 名増）、預託時間＝7,258 時間（施設支援 93%）、利用時間 225 時間（これを増やすことが課題）、総会員数 461 名（北 149、中央 86、西 148、湘南 78）

4.2 平成 19 年度決算報告：斉藤担当委員

B/S 資産 現預金（全体の 94%）を中心に昨年比 1,247 千円と大幅増加

負債 固定負債の積立金＝貯蓄 ∴正味財産からの調達資金であり健全な財政状態

P/L 収入 3,931 千円（8 割が時間預託活動寄付金）

収支差 677 千円＋事務所運営積立費 677 千円＝実質収支差 1,354 で活発な活動であった。

4.3 監査報告：笹木監事、西野監事 4 月 18 日監査実施し、正しい会計計算であったことを報告します。

4.4 平成 19 年度の活動方針：谷口代表

①拠点の分離独立と再編：(人材確保、独立機運がポイント) ②拠点の小ブロック化：検討を継続(会員の顔が見える組織) ③会員の拡大 ④会員相互の助け合い ⑤活動できない会員への配慮 ⑥楽しい仲間作り ⑦本部、各拠点との連携化(4 拠点+東京の共同イベント開催)

4.5 平成 20 年度予算：斉藤会計委員 ・収入 3,820 千円、8 割が時間預託活動寄付金
・支出 2,720 千円 収支差 550 千円+積立費 550 千円=実態として 1,100 千円の増

4.6 運営規則変更：北原事務局長 ブロック記載順序を見やすく変更した。

4.7 Q&A Q：全拠点の活動実態はどうか？ A：6 割が月 100 時間未達、Q：湘南拠点独立の如く本部トップダウンで進めるやり方は疑問である。本来は自らの動きとして独立があるべきである。A：横浜としては、人材確保、会員の盛り上がりが出来たら独立へと考えている。Q：未達 6 割の拠点が心配、猛烈な高齢化時代を迎え、預託時間を使う時代に入る。入会者の半分は時間預託を使う目的で入っただろう。使う受け皿を検討すべきではないか。A：システムとして検討して行きたい。

4.8 以上の議事に対し出席者の拍手で賛意を確認した。

4.9 平成 20 年度運営委員：原囿信夫氏が紹介された。金井明氏、橋本房子氏が退任した。

5. 事例報告

①「文字盤使用の H さんと共に」北原美智子会員

昨年 10 月から身体障害者療護施設リエゾン笠間で H さんへの車椅子散歩や買い物、文字盤での会話のボランティア提供をナルク会員 7 人で始めた。回を重ねるごとに意思疎通が円滑になり、散歩途中の花やアカネトンボとの出会いなど数々の感動を H さんと分かち合っている。回数を増やして欲しいとの要望もあり、皆さんの参加をお待ちします。

②「出前 書道教室」木幡啓子会員

生徒が楽しむことができる四季の言葉、4 文字の格言・ことわざを手本に書いている。良い点を褒め、手直しも良い気分を維持するように心がけている。作品は施設の掲示板・自室に掲示し、或いは自宅に持ち帰っている。8 名の会員が 14 ヶ所の施設に出前して書道教室を開き、書道展にも出してご家族にも楽しんで頂いている。利用者とのふれあいやスタッフとの関係プレーが大切です。

6. 講演 「期待されるナルクの拠点像」 高畑敬一ナルク会長

本部 5 カ年計画の目標は 300 拠点 6 万人である。昨年の TBS 金スマで 20~40 代中心に 4,000 人が入会した。親のために時間預託したいとする方が多い。15 周年は来年京都で記念行事を行ない「環境に優しいウォーク」をテーマに日本橋から京都三条大橋まで中仙道ウォークを計画している。

(以下パワーポイントの要点) 137 拠点。松下幸之助「朝に志を立て、昼に実行し、夕に反省する」。集団には目標が大事。リーダーシップ、チームワーク(代表、副代表、事務局長)、運営委員の責任分担、運営員会と定例会で合意を(月 1 回開催)。目標：会員数、総預託時間数、総奉仕時間数、地域の認知度・期待度。目標達成のために PDCD を回そう。①ナルクの理念に惚れこみ実践し広げる。

②新しいボランティアやクラブ活動に挑戦する。③預託時間のない人がサービスを受けるときの寄付金の弾力性④地域に密着し要援護者を見つける。⑤障害者支援 ⑥子育て支援 ⑦コーディネーターが鍵[待っているニーズは来ない、アンテナを。特定の人に偏らない。預託点数を持たない会員をゼロに。最初は仲良しペアでも(2 人で分ける)。登録用紙は定期的に更新(3~4 年毎)。新人は事務所当番から。鉄は熱いうちに打て]。⑧顔の見える組織に、ブロック別の運営。(定期交流、懇談会。運営委員の中から責任者を。コーディネーターもブロック別に。) 最小行政単位毎に拠点を作る。声かけ・誘いあわせで参加率・活動率の向上。